



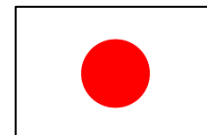
Golden Friendship, Golden Opportunities
輝ける友情 輝ける機会

日ASEAN友好協力50周年の成果 - 51年目からの実践に向けて -

経済同友会 日ASEAN委員会 第4回会合

2024年1月26日

ASEAN日本政府代表部大使 紀谷昌彦



(問題提起)

1. 日ASEAN友好協力50周年の成果は何か？
2. 51年目からの課題は何か？
3. 誰がどのように実践するか？

1. 日ASEAN友好協力50周年の成果は何か？

1. 特別首脳会議（2023年12月17日、東京）

●日ASEAN友好協力に関する共同ビジョン・ステートメントの採択

ー副題：信頼のパートナー（Trusted Partners）



（インド太平洋に関するASEANアウトルックと、日本の自由で開かれたインド太平洋構想とが本質的原則を共有することを認識。すべての人間が生れながらにして自由であり、尊厳と権利とについて平等であることを確認。）

我々のビジョンは、共有された価値や原則が確保され、全ての国が平和及び繁栄を追求でき、民主主義、法の支配、良い統治並びに人権及び基本的自由の尊重の原則が守られる世界を目指すこと。我々は、相互信頼に基づき、ASEAN一体性と中心性を支持しつつ、次の3つの柱の下で、互恵的な包括的戦略的パートナーシップを強化する。

①世代を超えた心と心のパートナー

日ASEANパートナーシップの基盤である、相互信頼、相互理解、相互尊重の「心と心」の関係をさらに育むことにコミット。
若者や人的交流、知的交流の強化。

②未来の経済・社会を共創するパートナー

多様、包摂的、強靱、自由、公正、豊かで持続可能な経済社会を共創。
共通の経済的・社会的課題に共同で取り組む。
質の高いインフラによる連結性やサプライチェーン強靱性・産業競争力の強化、
持続可能なエネルギー安全保障・エネルギー移行の促進。

③平和と安定のためのパートナー

自由で開かれたインド太平洋の促進、安全保障協力の強化、
核なき世界に向けた核軍縮・不拡散、法の支配等の促進、WPS等の促進。

●岸田総理から、
「信頼」に基づく
「共創」により
目指す「平和と
繁栄」のための
アクション
を発表（p.3）

●実施計画（共同ビジョンステートメント別添）の採択

共同ビジョン・ステートメントの3つの柱に沿った具体的協力の項目を示す文書。
（合計**130項目**。40周年時の実施計画は75項目。）

実施計画に記載されている主要協力分野

1. 世代を超えた心と心のパートナー

- ✓ 青年交流
- ✓ 文化交流
- ✓ スポーツ
- ✓ 観光
- ✓ 語学
- ✓ 教育
- ✓ 科学・技術
- ✓ ASEAN事務局支援

2. 未来の経済・社会を共創するパートナー

- ✓ 経済
- ✓ 金融
- ✓ 連結性
- ✓ 気候変動
- ✓ エネルギー・重要鉱物
- ✓ 環境
- ✓ 防災
- ✓ 保健
- ✓ デジタル
- ✓ 宇宙
- ✓ 農業・食料システム
- ✓ 社会課題

3. 平和と安定のためのパートナー

- ✓ 法の支配
- ✓ 海洋安全保障
- ✓ 防衛
- ✓ WPS・YPS
- ✓ 核軍縮
- ✓ 人権
- ✓ テロ・国際犯罪
- ✓ サイバーセキュリティ
- ✓ 偽情報
- ✓ 出入国管理
- ✓ 平和構築

「信頼」に基づく「共創」により目指す「平和と繁栄」のためのアクション

(日本ASEAN友好協力50周年特別首脳会議において岸田総理から発表)

- ① 世代を超えた心と心のパートナー： 日ASEAN双方が裨益する交流を通じ、相互理解をより一層醸成し、「心と心の繋がり」を次の世代に繋げる
 - 次世代共創パートナーシップー文化のWA2.0ー
 - 国際共同研究や人材交流・育成等を通じた持続可能な研究者ネットワークの強化
 - 若手ビジネスリーダーのネットワーク作り、ASEAN事務局職員の奨学プログラム等
- ② 未来の経済・社会を共創するパートナー： 互いの強みを持ち寄り、山積する課題への解決策を見出し、日ASEAN双方の活力が相互環流することでより強靱な経済・社会を目指す
 - 共創による課題解決のための官民連携の新たな取組
 - アジア・ゼロエミッション共同体（AZEC）構想
 - 日ASEAN次世代自動車産業共創イニシアティブ
 - 連結性強化、気候変動対策、中小零細企業・スタートアップ支援等のための民間投資の後押し
- ③ 平和と安定のためのパートナー： 日ASEAN双方の人々が共に暮らす地域の平和と繁栄に貢献し、全ての人が繁栄を享受し、「人間の尊厳」が守られる世界を共に創る
 - 法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序の維持・強化ための取組
 - サイバーセキュリティ人材育成、ASEAN防災人道支援調整センターを通じた人道支援等

「信頼」に基づく「共創」により目指す「平和と繁栄」のためのアクション

(日本ASEAN友好協力50周年特別首脳会議において岸田総理から発表)

- ①世代を超えた心と心のパートナー： 日ASEAN双方が裨益する交流を通じ、相互理解をより一層醸成し、「心と心」の繋がりを次の世代に繋げる

➤次世代共創パートナーシップ－文化のWA2.0－

日ASEANの次世代の担い手を中心として今後10年で1千万人以上が受益する、知的・文化交流・日本語パートナーズ等を通じた包括的な人的交流プログラム(400億円)

例：日本語パートナーズ＝各国・地域の日本語学習をサポートしつつ、現地の文化や言葉を学び、将来海外との懸け橋になる国際人材となって、日本国内の多文化共生社会実現にも貢献。各国・地域では、日本語含む対日理解や将来の訪日促進に寄与。

➤国際共同研究や人材交流・育成等を通じた持続可能な研究者ネットワークの強化

長年の交流実績を基盤としつつ、ASEAN諸国のニーズを踏まえた国際共同研究や人材交流・育成などを支援する新たな事業を立ち上げ、ASEANとの研究者ネットワークを強化し、新たなイノベーションを共創する関係へと発展させる。(150億円)

➤若手ビジネスリーダーのネットワーク作り、ASEAN事務局職員奨学プログラム等

スタートアップ人材交流・エコシステム連携に向け、ERIAと連携しヤング/Z世代ビジネスリーダーズ・コミュニティ創設、ASEAN事務局に勤務する有望な若手職員の日本での研修(公共政策等)、2025年日本国際博覧会協会へのASEAN若手政府職員等の派遣、映画共同製作等の取組を進める

「信頼」に基づく「共創」により目指す「平和と繁栄」のためのアクション

(日本ASEAN友好協力50周年特別首脳会議において岸田総理から発表)

- ② 未来の経済・社会を共創するパートナー：互いの強みを持ち寄り、山積する課題への解決策を見出し、日ASEAN双方の活力が相互環流することでより強靱な経済・社会を目指す

➤ 共創による課題解決のための官民連携の新たな取組

■ アジア・ゼロエミッション共同体（AZEC）構想

経済成長・エネルギー安全保障・脱炭素の同時達成、多様な道筋によるカーボンニュートラル（CN）の共通目標へのエネルギー移行、アジア・ゼロエミッションセンター（ERIAに設置）による政策やプロジェクト支援の実施

■ 日ASEAN次世代自動車産業共創イニシアティブ

ASEANが世界の中心的な自動車生産・輸出ハブであり続けるための戦略を協力して策定・実施

■ 連結性強化、気候変動対策、中小零細企業・スタートアップ支援等のための民間投資の後押し

オファー型協力の導入、「民間資金動員促進型無償資金協力」の立ち上げ、海外投融資の一層の活用など新たな取組を推進。民間投資を後押しすることにより、民・官合わせて5年間で350億ドルの資金がASEAN地域に動員されることを目指す。

「信頼」に基づく「共創」により目指す「平和と繁栄」のためのアクション

(日本ASEAN友好協力50周年特別首脳会議において岸田総理から発表)

③ 平和と安定のためのパートナー：日ASEAN双方の人々が共に暮らす地域の平和と繁栄に貢献し、全ての人が繁栄を享受し、「人間の尊厳」が守られる世界を共に創る

➤ 法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序のための取組

- 日ASEANサイバーセキュリティ能力構築センターを通じた人材育成支援
- ASEAN防災人道支援センターを通じたミャンマー国民に対する人道支援
- その他、各国の事情も踏まえつつ、「ヒロシマ・アクション・プラン」に基づく核軍縮・不拡散、法制度整備支援含む司法分野協力、WPS（女性・平和・安全保障）、サイバーセキュリティ、防衛交流・協力、OSA（政府安全保障能力強化支援）の取組を展開



日本語パートナーズ



ベトナムの風力発電所建設支援（海外投融資）



日ASEAN乗艦協力プログラム

2. 友好協力50周年（2023年）を通じた協力

各イニシアティブ＝特別首脳会議で採択された実施計画に反映され、実現に向け取り組む

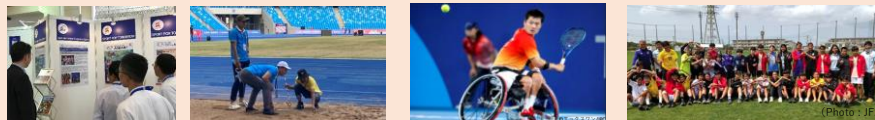
スポーツ（チェンマイ宣言）

概要

- ・50周年を記念し9月の日ASEANスポーツ大臣会合で全会一致採択。
- ・2030年に向けた日ASEANスポーツ協力の拡大を目指し、体育指導者の育成、女性・障害者スポーツの推進、アンチ・ドーピング活動支援に加え、新たにスポーツマネジメント分野での協力拡大を盛り込んだ。

具体的な取組（スポーツマネジメント分野での新たな協力拡大）

- ・スポーツ産業の国際的な連携強化
- ・スポーツ専門家の育成
- ・大規模スポーツ大会の企画運営・ハイパフォーマンスの知見共有
- ・スポーツを通じたSDGsの達成



観光（観光大臣特別対話共同声明）

概要

- ・友好協力50周年を記念し、10月に東京で日ASEAN観光大臣特別対話を開催。「持続可能な観光」の実現 および「相互交流」の更なる促進に向けた日ASEAN の認識の共有を図るとともに、観光分野における今後の協力関係の方向性について示した共同声明を採択。

具体的な取組

- ・持続可能な観光に関するベストプラクティスの共有や人材育成分野での協力
- ・政府、関係機関、民間企業等の層での観光協力の推進
- ・多様な分野にわたる観光交流の拡大等



経済（日ASEAN経済共創ビジョン、未来デザイン&アクションプラン）

概要

- ・信頼をベースにした「共創」の観点から、これから50年を見据えた未来を担う産業を共に創るための“ビジョン”と、それを踏まえた日ASEANの政府による具体的な取組を記載した“プラン”に合意。

具体的な取組

- ・アジアゼロエミッション共同体（AZEC）構想の推進
- ・日ASEANの協業などオープンイノベーションの促進
- ・次世代を担うヤングビジネスリーダー等のネットワークの強化
- ・ERIA等を通じたASEANのビジネス環境基盤整備



経済協力（日ASEAN包括的連結性イニシアティブ）

概要

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/100548765.pdf>

- ・9月の日ASEAN関連首脳会議の際に岸田総理から発表。
- ・ASEANにおける連結性強化の取組をハード・ソフト両面で一層強化するもの。2.8兆円規模の交通インフラ整備支援を実施中、今後3年間で5,000人の人材育成支援を実施。

具体的な取組

- ・鉄道や港湾、空港など、陸海空の交通インフラの整備
- ・デジタル分野や海洋における協力の推進
- ・サプライチェーンや電力連結性の向上支援
- ・幅広い分野における人材交流や研修事業などの実施



気候変動については、12月18日にアジア・ゼロエミッション共同体（AZEC）首脳会合を開催（別紙）

交通（ルアンパバーン・アクションプラン）

概要

- ・本年11月に第21回日ASEAN交通大臣会合を開催。
- ・友好協力50周年に加え、日ASEAN交通連携20周年を記念し、今後10年間の交通分野の連携をさらに強化するための新たなアクションプランを採択。

具体的な取組

- ・「強靱なサプライチェーン」、「人と人との連結性強化」、「脱炭素化・持続可能な交通」、「包摂的でアクセシブルな交通」及び「安全・安心な交通」の5つの柱のもと、航空、海上交通、陸上交通、交通円滑化の各分野において、人材育成や技術支援などの個別プロジェクトを推進。



農業（日ASEANみどり協力プラン）

概要

ASEAN地域における強靱で持続可能な農業・食料システムの構築、ひいてはASEAN地域の食料安全保障に貢献するため、我が国の技術や経験を活かした協力プロジェクトを実施するためのプラン（本年10月に初めて開催した日ASEAN農林大臣会合において採択）

具体的な取組

- ・水田からのメタン発生を削減する間断かんがい技術等を活用したJCM
- ・GPSを用いてトラクター等を自動操舵し、農業生産性を向上させる技術
- ・農地区画ごとの衛星画像による土壌診断で、施肥量を削減



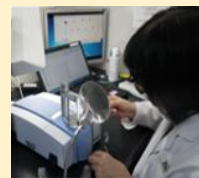
環境（日ASEAN気候環境戦略プログラム：SPACE）

概要

- ・8月に開催された日ASEAN環境気候変動閣僚級対話において発足。気候変動・汚染・生物多様性損失という、前例の無い3つの地球規模の危機に取り組む。

具体的な取組

- ・気候変動：気候関連財務情報開示（透明性）、福岡方式メタン削減（緩和）、官民連携を通じた早期警戒警報システム導入（適応）
- ・汚染：プラスチック汚染対策強化、e-waste関連法令整備等
- ・生物多様性：生物多様性国家戦略及び行動計画策定支援等



法務（特別法務大臣会合共同声明・ワークプラン）

概要

- ・7月に開催された日ASEAN特別法務大臣会合において、今後の日ASEAN協力の指針となる「共同声明」を採択。
- ・日本とASEANが法務分野で政治文書を採択するのは史上初。

具体的な取組（共同声明実施のためのワークプラン）

- ・法制度整備支援の強化
- ・高級法務実務者会合の定期開催
- ・国際仲裁及び調停の活用強化
- ・刑事司法分野における協力強化
- ・計画的かつ組織的な人材交流スキームの策定
- ・司法アクセス向上や知財紛争処理等の取組を含む法の支配の促進





友好協力50周年（2023年）を通じた協力（13の閣僚級会議を開催）

日程	場所	会議名（■前ページ掲載）	★50周年の特別会合
2月10日	フィリピン	日ASEANデジタル大臣会合 （概要）ICT分野の協力施策をまとめた「日ASEANデジタルワークプラン2023」を策定し、本計画に基づき、日本ASEAN友好協力50周年事業として「日ASEAN Open RANシンポジウム」を開催。	
5月2日	韓国	日ASEAN特別財務大臣・中央銀行総裁会議 （概要）日本とASEANが共に持続的な経済成長を遂げていくために、経済・金融協力を一層強化するとともに、域内金融協力や金融デジタル化等、新たな課題に連携して対応していくことを確認。	★
7月6日	日本	日ASEAN特別法務大臣会合 ■	★
7月13日	インドネシア	日ASEAN外相会議	
8月22日	インドネシア	日ASEAN経済大臣会合 ■	
8月22日	インドネシア	日ASEAN国際犯罪閣僚会議 （概要）日ASEANでテロ、サイバー犯罪、特殊詐欺等の国際犯罪対策について意見交換。また、特殊詐欺等の国際犯罪対策における協力強化や拉致問題を強調する共同声明を採択。	
8月24日	ラオス	日ASEAN環境気候変動閣僚級対話 ■	
9月1日	タイ	日ASEANスポーツ大臣会合 ■	
（9月6日）	インドネシア	（日ASEAN首脳会議）	
10月4日	マレーシア	日ASEAN農林大臣会合 ■	★
10月11-12日	ベトナム	日ASEAN防災閣僚級会合 （概要）防災行動計画の進捗状況を確認。また、これまでの防災協力の成果を確認する記念式典及び防災関連企業の対ASEAN進出を促すセミナーを内閣府防災が国交省とも連携して実施。	★
10月27-29日	日本	日ASEAN観光大臣特別対話 ■	★
11月10日	ラオス	日ASEAN交通大臣会合 ■	
11月15日	インドネシア	日ASEAN防衛担当大臣会合 （概要）具体的な協力内容を4つの柱として「防衛協力強化のための日ASEAN大臣イニシアティブ: ジャスミン（JASMINE）」を提示。防衛協力を新たな段階へと進め、新規事業等も実施していく。	

3. コミットメントの着実な実現

日・ASEAN統合基金 (JAIF) ファクトシート

JAIFとは？

- ◆ ASEAN統合に向けたASEAN加盟国の努力を支援し、ASEANにおける共同体設立支援及び域内格差の是正等のため、日本政府による70百万米ドルの拠出により、2006年に設立。
- ◆ 累計拠出額は860百万米ドル以上。
- ◆ 570件以上のプロジェクトを実施。

JAIFへの1億ドルの拠出（2023年3月）

【AOIP主流化支援のための協力案件（具体例） * 今後更なる案件形成と具体化を進める】

1. ASEAN事務局機能の支援

- ASEAN事務局職員の雇用
（AOIPモニタリング分野、女性・平和・安全保障（WPS）分野）
- ASEAN事務局職員向けのE-learning研修の策定支援



2. ASEAN若手公務員の育成支援

- アタッチメント・プログラム修了生対象の修士号取得プログラム
- ASEANジュニア・フェローシップ・プログラム基金への拠出
- アタッチメント・プログラムへの東ティモールの新規参加



3. コミットメントの着実な実現

日・ASEAN統合基金 (JAIF) ファクトシート



3. AOIP優先4分野における協力

海洋協力	➤ 船舶通行支援業務（VTS）管制官の育成 ➤ 海洋プラスチックごみ削減支援	
連結性	➤ 全世界衛星航法システム（GNSS）導入計画に係る人材育成 ➤ ASEAN資格保証・技術証明認証枠組みガイドラインの適用拡大	
SDGs	➤ スポーツを活用したSDGs達成に係るASEAN首脳宣言の実施支援 ➤ 食料安全保障に係るASEAN首脳宣言の実施支援 ➤ 法の支配推進のための支援（法制度整備、人材育成）	
経済等	➤ ASEAN防災人道支援調整（AHA）センターを通じたインド太平洋地域における防災協力の強化 ➤ スタートアップ支援（デジタル分野、クリーンエネルギー分野） ➤ 気候変動関連戦略策定に向けた支援 ➤ 観光促進支援（ウェルネスツーリズム、大阪・関西万博への出展支援）	 @ AHA center

今後の日ASEAN経済協力について

- 日ASEAN友好協力50周年を記念して、特別サミットの関連で、AZEC首脳会合、経済共創フォーラム、ヤング/Z世代ビジネスサミット、首脳・経済関係閣僚等と会談を実施。共に未来を創る「**共創（Co-Creation）**」をキーワードに、日ASEANのリーダーと議論。主な成果は以下の3点。
 - ① **AZEC「アジアゼロエミッション共同体」構想の推進**。多様かつ現実的なエネルギー移行を加速化。クリーン・エネルギーのサプライチェーンを構築。今般、**AZEC首脳会合において共同声明**を採択すると共に、**ERIAにアジアゼロエミッションセンターの設置**に合意。経団連、ERIA、ASEAN BACの3者をコアメンバーとする「**AZEC賢人会議**」を設立。
 - ② **未来を担う新産業の創出**。例えば、自動車では、日ASEAN「**次世代自動車産業共創イニシアティブ**」を創設。**タイとは、次世代自動車（ハイブリッド・EV等）**をはじめとする製造業の生産・輸出競争力等について議論する「**エネルギー・産業対話**」の立ち上げの検討に合意。
 - ③ **次世代を担う人材ネットワーク構築・強化**。**ヤング/Z世代ビジネスサミット**を初めて開催。**ERIAの産官学プラットフォーム機能強化**
- 経済産業省としては、フラッグシッププロジェクトの創出に向けた約10億ドル等を含め、「共創：Co-Creation」の実現に向けて、各般の支援措置を行っていく。さらに、いずれの分野でもERIAと最大限の連携をして進めていく。



経済共創フォーラムにおける総理メッセージ



カンボジア・チアセレイ国立銀行総裁
によるスピーチ



参加者によるディスカッションの様子



比・パスクアル貿易産業大臣/齋藤経産大臣
/ラオス・マラトン商工大臣

①アジア・ゼロエミッション共同体（AZEC）首脳会合

- 令和5年12月18日、AZEC首脳会合を開催。**AZEC首脳共同声明**が採択され、以下について首脳間で一致。
 - ① **脱炭素に向けた基本原則**（脱炭素・経済成長・エネルギー安全保障の同時実現、多様な道筋によるネットゼロ実現）
 - ② **政策策定支援**（ERIAにおけるアジア・ゼロエミッションセンターの立上げ）、**官民連携促進**（AZECを支援する賢人会議の歓迎）
 - ③ **脱炭素技術分野での協力強化、製造業のサプライチェーングリーン化、トランジションファイナンス推進**
- 首脳会合に向け締結された約70件のMOUを含む、進行中の350件以上の具体的な協力について経産大臣より報告。
- 各国首脳からは、**基本原則への支持とAZECの活動への高い期待**が表明。ゲスト参加した、ダニエル・ヤーギン氏から、**エネルギー安全保障等を考慮した現実的なエネルギー・トランジションの重要性**について言及。



（写真：内閣広報室提供）

首脳会合参加者

豪州、ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナムの首脳等、岸田総理、齋藤経産大臣、ダニエル・ヤーギン氏（ゲスト）、ERIA（オブザーバー）

具体的な協力の報告

- ・AZECプログレスレポート
- ・案件の例
 - 工業団地のグリーン化
 - グリーン水素による工場の脱炭素化
 - バイオマス発電、地熱開発
 - アンモニア専焼ガスタービン導入



AZECを支援する賢人会議等

- ・ASEANビジネス諮問委員会、経団連、ERIA間で共同声明発表
- ・日ASEAN経済共創フォーラム（12月16日）で、上記メンバーを含む有識者でパネルディスカッションを実施。



共同声明記念撮影
【岸田総理、ジョコ大統領、齋藤経産大臣同席】
（写真：内閣広報室提供）

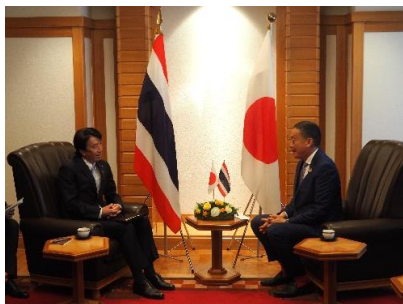


パネルディスカッションの様子

②未来産業・二国間協力（自動車産業等）

- 各国の首脳・経済関係閣僚等との会談(※)において、未来を担う新産業の創出。日本が得意とする、**クリーン・エネルギー、次世代自動車、半導体、航空宇宙、バイオ**といった分野で**ASEANと共に新しい産業を共創**することを提案。
- 特に**自動車**については、日ASEANでは、ERIAによる次世代自動車産業のマスタープラン策定のほか、バリューチェーン全体の脱炭素化、ハイブリッドからEVまで多様な生産体制の実現に向けた各国協力の推進等を盛り込んだ「次世代自動車産業共創イニシアティブ」に合意。また、その先行ケースとして、タイとは、次世代自動車産業を中心とした製造業の生産・輸出競争力強化等について議論する「エネルギー・産業対話」の立ち上げの検討に合意。
- ソラミツによるデジタル通貨を採用した**カンボジア**国立銀行とは、新たに、統一QRコード決済分野における協力覚書(MOC)を締結し、デジタル分野の協力を強化。ブルネイともエネルギートランジションに係るMOCを締結し、AZECの取組を加速。
- また、その他、新たな支援枠組みとして、NEXI-JICA間で、ブレンディッド・ファイナンス型の支援スキームに合意。

※：セター首相(泰)、アミン財務経済大臣(ブルネイ)、チン首相(越)、マライトーン商工大臣(ラオス)、パーンプリー副首相兼外務大臣(泰)、ケオ鉱業エネルギー大臣、チャム商業大臣、フン・マネット首相(カンボジア)、アリフィン・エネルギー鉱物資源大臣(尼)



タイ・セター首相表敬



ベトナム投資カンファレンスでの講演



カンボジア・チア・セレイ国立銀行総裁(MOC締結) ブルネイ・アミン財務経済大臣(MOC締結)



③次世代人材ネットワーク構築・強化

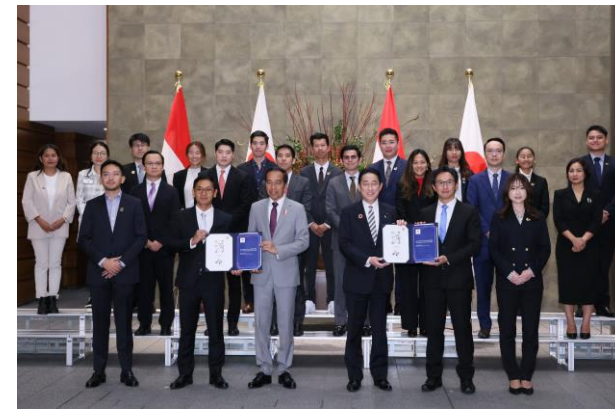
- 日ASEANの若手経営者や、起業家等、将来のビジネスリーダーとなることが期待される約100名の人材が、相互の理解・信頼関係を構築・強化すること目的として軽井沢に集結。次世代の新たな「つながり」を創る機会として、「ヤングビジネスリーダーズサミット」、「Z世代ビジネスリーダーズサミット」プロジェクトを始動。
- サミットにおいては、講演・パネルディスカッションを通じて、経済・ビジネス上の課題を共有、解決に向けた協力のあり方を議論し、「共同宣言」をとりまとめ。
- 「共同宣言」は、日ASEAN特別首脳会議の共同議長である岸田総理大臣及びジョコ・インドネシア大統領に手交。
- 日ASEAN50周年のレガシープロジェクトとして、今後も開催予定。次世代のネットワークを強化していく。



ヤングビジネスリーダーズサミット



Z世代ビジネスリーダーズサミットの議論の様子



日ASEAN特別サミット共同議長への成果物手交

2. 51年目からの課題は何か？

AOIPというプラットフォームを活用して、
協力の成果をインド太平洋から世界に広め、
地域と世界の平和と繁栄に貢献

世界にスケールアップ

エネルギー移行・気候変動・環境・
デジタル化・保健・防災などの
地球規模課題・社会課題

50年の
歴史

福田ドクトリン以来の
「心と心のふれ合う相互信頼関係」

50周年を契機に制度化・可視化を推進

多層的な交流と
相互理解の促進
を通じた信頼

日本
ASEAN

イノベーション
による社会課題
解決の共創

社会課題
の解決

多文化共生
社会の実現

日本とASEANが相互に学んで自らを変革し、
安全で豊かで持続可能な多文化共生社会を実現

3. 誰がどのように実践するか？

- (1) 「多様な担い手」の「見える化」が第一歩
 - 50周年に参画した主体がそれぞれ行動を起こし、「たいまつ」を掲げる
- (2) 「プラットフォーム」を通じた連携と「ハブ」の役割
 - 多様な担い手が「ベクトル」を合わせ、「付加価値」を共創する
- (3) 「日本」と「ASEAN」から「インド太平洋」と「世界」へ
 - 各国・各地に根差した「多様性」を取り込み、「普遍性」を目指す
- (4) 「60周年」から「100周年」へ
 - 成果を共有・発信する「マイルストーン」に向け、「夢を現実化」する

「51年目」から「VMAP」で未来を創造する

◆ Vision : 夢を描く

◆ Mission : 自分がやる

◆ Action : 行動にうつす

◆ Passion : 情熱で困難を乗り越える